

児童教育学会
第 31 回研究大会

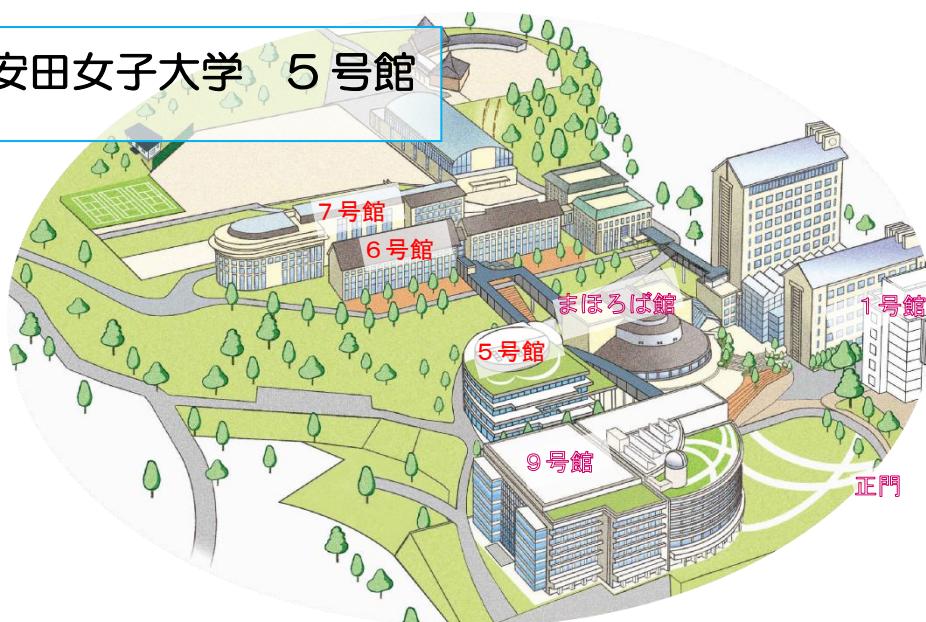
プログラム・発表要旨集

日時

2021 年 6 月 6 日(日)

会場

安田女子大学 5 号館



＜お問い合わせ先＞ 児童教育学会事務局

〒731-0153 広島市安佐南区安東 6 - 1 3 - 1 安田女子大学教育学部児童教育学科内

児童教育学会 第31回研究大会〔2021年6月6日（日）〕

プログラム

<9:00 受付> 5号館2階フロア

受付及び年会費納入担当 : 新沼 正子 (安田女子大学)
平本 哲嗣

(安田女子大学)

<9:30~11:30 研究発表(教育研究部門・実践研究部門)>

研究発表(A会場) 5201教室

座長: 朝倉 淳 (安田女子大学)
永田 彰子 (安田女子大学)

9:30 「気になる子」に関する文献分析

○圓光寺美奈子 (安田女子短期大学)

9:50 自閉スペクトラム症傾向のある子どもの社会性の発達を促す保育

○松本奈々 (広島市立狩小川保育園)

10:10 ADHD 傾向にある気になる子どもへの保育者支援に関する研究

○大柳江実華¹⁾, 西川ひろ子²⁾ (広島市立緑井保育園¹⁾, 安田女子大学²⁾)

10:30 2020 年新型コロナウイルス感染症予防のために実施された広島県内保育士養成校のオンライン授業による保育実習指導の効果と課題ー保育士養成校へのヒアリング調査を中心にー

○西川ひろ子¹⁾, 合原晶子²⁾, 岡本晴美³⁾, 光本弥生⁴⁾, 高橋実⁵⁾, 中原大介⁶⁾
(安田女子大学¹⁾, 広島文化学園大学²⁾, 広島国際大学³⁾, 広島修道大学⁴⁾, 福山市立大学⁵⁾, 福山平成大学⁶⁾)

10:50 2021 年新型コロナウイルス感染症予防のために実施された広島県内保育士養成校のオンライン授業による保育実習指導の効果と課題ー保育実習学生へのアンケート調査を中心にー

○中原大介¹⁾, 合原晶子²⁾, 岡本晴美³⁾, 光本弥生⁴⁾, 高橋実⁵⁾, 西川ひろ子⁶⁾
(福山平成大学¹⁾, 広島文化学園大学²⁾, 広島国際大学³⁾, 広島修道大学⁴⁾, 福山市立大学⁵⁾, 安田女子大学⁶⁾)

11:10 大学生のコミュニケーション能力育成のための臨床心理学的カリキュラムの開(12)ー集団討論支援アプリケーション「会話に花を咲かせよう」の効果ー

○山本文枝¹⁾, 西まゆみ¹⁾, 西川ひろ子¹⁾ (安田女子大学¹⁾)

研究発表（B会場）**5206教室**

座長：吉田 裕久（安田女子大学）

長友 洋喜（安田女子大学）

9:30 **子どものキャラクター志向について**

○小泉里奈（広島市立五日市駅前保育園）

9:50 **固定遊具のある遊びの環境が子どもの発達に及ぼす影響**

○村上真央（広島市立口田保育園）

10:10 **幼児の休日の運動機会に関する調査研究**

○加登本仁（安田女子大学）

10:30 **過保護の親に対する保育者の関わり**

○久保下由唯（三原市立大和認定こども園）

10:50 **廿日市市における子育て支援の現状と課題**

○洞井優華（廿日市市立宮内保育園）

11:10 **「教育原理」から見た教職専門教育の現状と課題****—大学図書館収集調査の分析に焦点を当てて—**

○矢野光恵（安田女子短期大学）

研究発表（C会場）**5202教室**

座長：深澤 広明（安田女子大学）

宮本香代子（安田女子大学）

9:30 **保育の ICT 化に関する研究**

○白迫優花（広島市立船越南部保育園）

9:50 **スマホ依存による子育ての現状と課題**

○井上加奈子（東広島市立中黒保育所）

10:10 **「いじめ」に関する文献分析**

○橋本信子（安田女子短期大学）

10:30 **学校教師のための NIE 講座①—学習単元に結びつく新聞記事の活用—**

○中島正明（安田女子大学名誉教授）

10:50 **「ESD」に関する文献分析—雑誌記事を中心として—**

○柿岡玲子（安田女子短期大学）

11:10 **マイクロプラスチック問題に関する小学校授業プランの開発****—6年理科 食物連鎖の発展学習として—**

○土井徹

（安田女子大学）

11:40~12:00**総 会****5201教室**

進行 加登本 仁（安田女子大学）

・会長あいさつ

西川 ひろ子（安田女子大学）

・議長選出

・決算監査報告

平本 哲嗣（安田女子大学）

・事業及び予算提案

平本 哲嗣（安田女子大学）

・会則変更及び役員承認

平本 哲嗣（安田女子大学）

「気になる子」に関する文献分析

圓光寺 美奈子 (安田女子短期大学保育科)

I 研究の目的及び方法

近年、保育現場では、頻繁に「気になる子」という言葉を耳にする。幼稚園や保育園、認定こども園などは、初めての集団生活を営む場であることから、集団生活に馴染めない、クラス全体で行う活動に参加しない、思いや行動が把握しづらいと思われるような子どもの姿は、気にかかる存在として保育者の目に留まりがちである。それは未満児よりも 3 歳以上児に関して捉えられる傾向が強いと思われる。保育者はその子どもに心を寄せ、苦慮しながら手だてを考え、支援を繰り返す。また、保育者は、その子どもの保護者への対応にもエネルギーを注いでいる。このことから「気になる子」やクラスの子どもたちに対する保育をどのように進めていくべきか、個と集団の育ちを保障していくことは大きな問題となってくる。「気になる子」自身や子どもに関わる保育者を支える園長や主任、フリーの保育者など周りのサポートの重要性や保育は一人ではできないことを筆者自身が実感してきていることである。

この「気になる子」に関しては、明確な定義はなく、多義的な要素を含んで使用されている用語である。では、この「気になる子」という言葉はいつ頃から用いられるようになったのか、「気になる子」に関する文献にはどのような推移が見られるのか、それぞれの文献のタイトルから「気になる子」はどのように捉えられているのかなど、文献のタイトルや発行件数を調査することとした。

本研究では、「気になる子」関係文献の分析をとおして、この用語の概念を把握することを目的とする。

文献調査は、国立国会図書館サーチを使用し、タイトル中に「気になる子」を含む図書及び記事・論文について検索を行い、まとめた。この検索においては、国立国会図書館オンラインに上げられているデータベースに絞っている。その件数は、国立国会図書館所蔵の図書 307 件、記事・論文 637 件 合計 980 件であった。

II 研究結果及び考察

「気になる子」に関する文献点数を 5 年ごとにまとめた結果、「気になる子」という言葉のルーツは図 1 の図書、1954 年の杉山穰著『気になる子ども』（主婦の友社）であった。記事・論文よりも図書が先行していることが注目される。1975 年に 1 冊、1982 年『気になる子ども』心理学的見方と指導（成文堂新光舎）他 1 冊と 1980 年代から徐々に図書が増加しているが、ほとんどが心理学の分野である。2004 年、2005 年から発達障害に関連する書籍が見られるようになってきている。

図 2 の記事・論文の文献では、1994 年に初めて甲賀正の記事『今気になる、子どもの心とからだの Q&A』が取り上げられた。1999 年には藤村美保『「ちょっと気になる」子供のコミュニケーションの支援について』という論文が発表された。2000 年以降一気に点数の増加が見られるが、論文による保育研究の数が多くなったことと、タイトルの中に保護者支援やインクルーシブ保育、ユニバーサルデザイン、発達相談、巡回相談などの言葉が見受けられ、多方面から支援を考えるようになりつつあることが伺える。これらを背景として、「気になる子」という用語のみでひとくくりにするのではなく、子ども一人一人の人権を尊重しながら、「ともに」という姿勢をもち、より丁寧な個別対応と具体的な方策を試みていく必要があると考える。

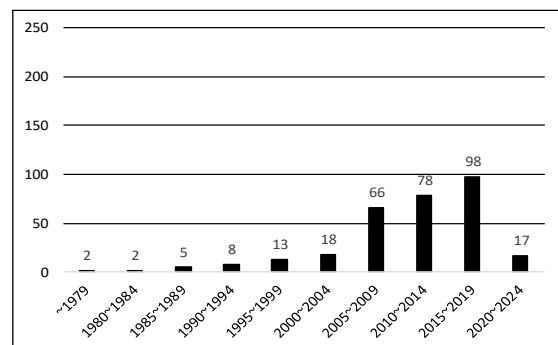


図 1 「気になる子」関係文献の推移（図書）

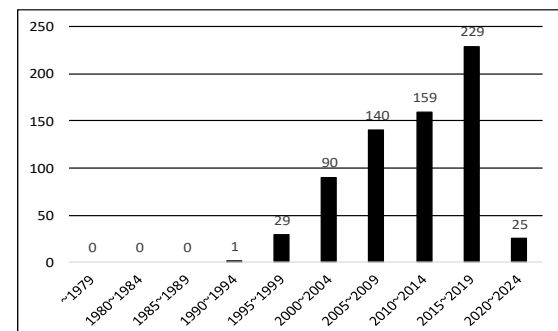


図 2 「気になる子」関係文献の推移（記事・論文）

自閉スペクトラム症傾向のある子どもの社会性の発達を促す保育

松本 奈々（広島市狩小川保育園）

I 研究の目的及び方法

幼稚園や保育所で一人遊びを好みながらも、他児を気にする自閉症スペクトラム症傾向の幼児と出会うことは少なくない。鶴田（2017）等の先行研究では、保育所では一定数の自閉スペクトラム症児が在園しており、社会性に課題が見られる子どもが多いと論じられていた。また、自閉症児の対人関係は四つにパターン分けすることができ、その特徴に合った支援の必要性が求められていた。青木ら（2019）が発表した療育センターでの事例研究では、社会性の基盤になる共同注意を促すために、より専門的な個別支援が行われていた。しかし、保育所での具体的な支援は明らかにされていない。そこで本研究では、自閉スペクトラム症傾向のある子どもの理解を深め、たうえて、保育場面における保育者が行う社会性の発達を促すための具体的な支援を明らかにすることである。

本研究方法は、文献分析と幼稚園での参観調査に基づいた保育者へのヒアリング調査を併用した。

II 研究結果及び考察

文献分析では、社会性の基盤である共同注意は、視覚的支援や遊びの展開の工夫等によって促すことができると明らかになった。また、その共同注意行動の基盤は、自閉症児と身近な大人の愛着関係であるため、保育者による、保護者への特別な関わりや援助の必要性も感じた。さらに、年単位で長期にわたって支援を行うことの重要性も明らかとなった。

参観調査では、友達との関わりに難を有する Y 児・N 児を長期にわたって観察し、社会性が発達していく過程を調査した。Y 児は人が苦手で他者と関わろうとしない傾向にある。一方の N 児は、人と積極的に関わろうとするも、相手の気持ちを読み取ることが苦手であるためにトラブルになることがあった。

ヒアリング調査によって異なる特徴を持つ二児に対して、担任保育者は対象児の特性を認め、個人に合った支援を行うことを意識していることが明らかとなった。保育者の支援により人の温かさを感じるようになり、当初集団場面で苦手で保育室から飛び出していた Y 児も、椅子に座ってクラスの活動をみるできるようになった。また、N 児は行動を○、×と端的に保育者から伝えられることで、行動の良し悪しを理解して、他者との関わり方を学んでいる様子だった。更に、文献で論じられていた集団での絵本の読み聞かせを行ったところ、Y 児は友達と会話をしながら、場面を楽しむことができていた。

III 引用・参考文献

- ・青木康彦・野呂文行（2019）「ペアリング技法を適応した始発型共同注意場面における視線移動指導の予備的検討」『自閉スペクトラム研究 第 16 巻第 2 号』 pp. 17-23.
- ・鶴田一郎（2017）「自閉症スペクトラムにおける『三つの共通特徴』と『四つの対人関係パターン』について」『広島国際大学 教職教室 教育論叢 第 9 号』 pp. 63-72.

ADHD 傾向にある気になる子どもへの保育者支援に関する研究

大柳江実華（広島市）・西川ひろ子（安田女子大学）

I 研究の目的及び方法

先行研究では、濱田（2019）は、保育者はADHDの行動特徴は子どもの意図に帰属すること、対応は本人の良いところを認める等の「ポジティブな関与」が最もふさわしいと考えていると述べている。しかし、質問調査紙調査のみの実施であったため、保育者の具体的な対応が明らかになっていない。また、嶋野（2010）は、ADHDの子どもの支援において、子どもの止まらない質問に対して納得するまで対応し続ける（関係性）、無理に遊びに誘うのではなく楽しんでいるのか見守る（活動性）、人を叩く場合は叩く以外の意思表示の仕方を教える（攻撃性）、声をかけて安心できるようにする（未熟性）の支援を紹介した。しかし、ADHD傾向のある子どもが保育者支援によって行動特徴がどのように変化したのかは不明であった。

そこで、本研究では、ADHD傾向のある子どもの理解を深めたうえで、ADHD傾向のある子どもに対し、保育現場における保育者が行う具体的で多様な支援について明らかにすることを目的とする。

II 研究方法

ADHD 傾向のある子どもの特徴と支援方法などについて文献から分析し、保育者へ ADHD 傾向のある気になる子どもへの支援に関するインタビュー調査を行った。また、広島市内私立幼稚園の長期間の参観調査を基にした担任保育者へのヒアリング調査により、ADHD 傾向のある子どもへの保育者が行う支援を考察・分析し、具体的な子どもの発達のプロセスを通して支援の様子と支援による子どもの育ちの変化を調査した。

III 研究結果及び考察

保育者のインタビュー調査では、ADHD 傾向のある子どもが困り感を感じている場面として気持ちの切り替えや他児との関わりが多かった。具体的には、気持ちが抑えられずに手がでたり奇声を発したりする、目に入ったものが気になる、気持ちが崩れて自分が何故泣いているのかわからなくなってしまう子どもの様子が見られた。保育者の支援方法は、「気持ちの受容」を常に意識されており、その対応があることで何故そのような行動をとったのかなど気持ちの整理を一緒にできる段階に進むことができることが明らかになった。

IV 引用・参考文献

- ・嶋野重行（2010）「「気になる」子どもに関する研究（3）幼稚園における ADHD が疑われる子どもに対する支援と事例」『盛岡大学短期大学部紀要 20（33）』 pp. 23-34.
- ・濱田祥子（2019）「ADHD の行動特徴に対する保育者の原因帰属と対応の関連」『日本 LD 学会第 28 巻(2)』 pp. 283-295.
- ・守巧（2012）「多動・衝動性が強い A 児の事例から見た幼稚園における担任への支援体制の構築」『東京福祉大学・大学院紀要 2（2）』 pp. 151-160.

2021 年新型コロナウイルス感染症予防のために実施された広島県内保育士養成校のオンライン授業による保育実習指導の効果と課題

ー保育士養成校へのヒアリング調査を中心にー

西川ひろ子（安田女子大学）・合原晶子（広島文化学園大学）・岡本晴美（広島国際大学）

光本弥生（広島修道大学）・高橋 実（福山市立大学）・中原大介（福山平成大学）

I 研究の目的及び方法

新型コロナウイルス感染症のために保育士養成校はほとんどの授業をオンラインで実施することを余儀なくされた。しかし、従来は対面授業を主としてきた実習指導に対して、各養成校は困難さを抱き、効果的な教育方法を模索している。そこで、本研究では、保育士養成校実習指導担当者からの視点でオンライン授業による保育実習指導の現状を分析し、対面授業と比較した教育効果と課題を明らかにする。

研究方法として、広島県内保育士養成校実習指導担当者へのヒアリング調査を実施した。広島県内保育士養成校 19 校中 11 校にご協力を頂いた。

また、ヒアリング調査は、研究依頼書、研究説明書を通して、研究目的、個人情報への配慮などについて事前説明をし、協力が自由意志であり、任意であることを伝え、同意書の記入を依頼した。また、調査途中で辞退できることや収集した情報はすぐに消去されること、また研究承諾同意撤回書を作成できることなどの説明を行った。

II 研究結果及び考察

ヒアリング調査からは、ほとんどの養成校で実習先と実習期間の変更を行っており、その対応に多くの時間・精神的負担があったことが明らかとなった。オンラインでの実習指導は、5 月までに集中していたが、学内の罹患者の状況により年度末にすべてがオンライン授業に変更となった養成校もあった。また、オンライン授業の教材作成の負担が大きく、PC 技術を得手とする担当者に負担が集中していた現状が明らかとなった。オンライン授業で指導できるものや、実習態度や個人情報に関わる書類など対面で確認したい内容は難しい、学生の理解度の把握がつかめないと感じている実習担当者は少なくなかった。その一方で、対面授業よりオンライン授業による保育実習指導の方が効果があったのは、感染症対策、課題や提出物の確認が容易となった、学生によっては後から確認で来るので安心して授業を受けられたとするものもいるとの報告があった。

オンライン授業による課題は担当者及び実習生への負担の増加、初めて実習に行く保育実習指導 I の工夫、実習にかかわる書類に関する指導であった。

オンライン授業で保育実習指導を受けた学習定着率や保育実習における不安等の軽減については、今後の課題とする。

謝辞:本研究は令和 2 年度中国四国保育士養成協議会教職員研究助成を受け、行ったものである。

2021 年新型コロナウイルス感染症予防のために実施された広島県内保育士養成校のオンライン授業による保育実習指導の効果と課題

ー保育実習学生へのアンケート調査を中心にー

中原大介（福山平成大学）・合原晶子（広島文化学園大学）・岡本晴美（広島国際大学）

光本弥生（広島修道大学）・高橋 実（福山市立大学）・西川ひろ子（安田女子大学）

I 研究の目的及び方法

新型コロナウイルス感染症のために保育士養成校はほとんどの授業をオンラインで実施することを余儀なくされた。しかし、従来は対面授業を主としてきた実習指導に対して、各養成校は困難さを抱き、効果的な教育方法を模索している。そこで、本研究では、保育実習学生からの視点でオンライン授業による保育実習指導の現状を分析し、対面授業と比較した教育効果と課題を明らかにする。

研究方法として、保育士養成校の保育実習生へのアンケート調査を実施した。保育実習生へのアンケート回収率は、69.6%であった。

II 研究結果及び考察

保育実習生が感じたオンライン授業による保育実習指導の利点は、図に示す通り「感染予防」が 59%と最も高く、次に「通学時間なし」であった。しかし、「時間の余裕」は、0%であり、実習生にとっては時間的負担が大きかったことが推測される。このことは、同様の調査を保育士養成校実習指導担当者に実施した結果と比較すると、養成校実習指導担当者が「講義後の確認」を 55%回答していることに比較して、実習学生が 11%と低く、講義後に何回も聴講する時間的余裕がなかったことに相関しているのではないだろうか。

しかし、時間的負担となったオンライン授業による実習指導であるが、その必要性に関しては、必要であるとの回答は 69.9%もあり、有効性の評価は高かった。

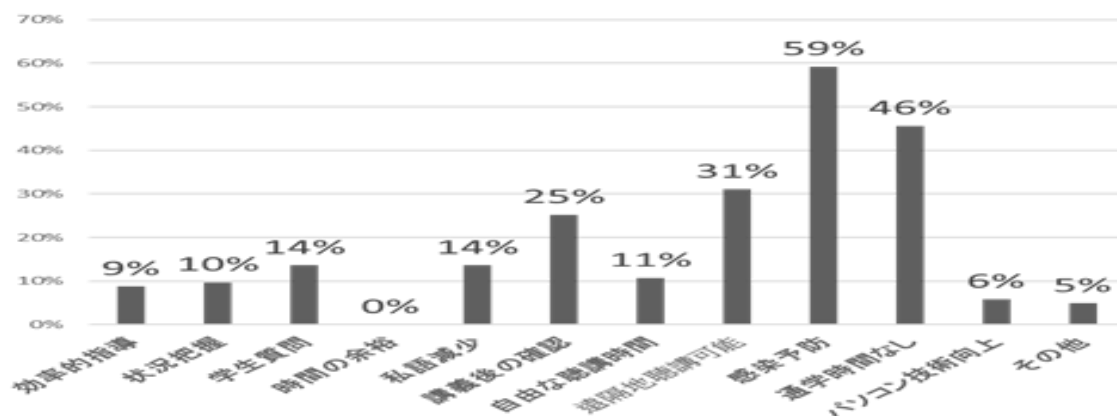


図 保育実習生が感じるオンライン授業による保育実習指導の利点

謝辞:本研究は令和2年度中国四国保育士養成協議会教職員研究助成を受け、行ったものである。

大学生のコミュニケーション能力育成のための臨床心理学的カリキュラムの開発 (12)

—集団討論支援アプリケーション「会話に花を咲かせよう」の効果—

山本 文枝¹・西川 ひろ子²・西 まゆみ¹

(¹安田女子大学心理学部・²安田女子大学教育学部)

I 目 的

自閉症スペクトラムに代表される社会性の発達障がいグレーゾーンにいる大学生は支援につながりにくいいため、大学教育の中でコミュニケーション能力を育成するためのカリキュラムを開発することを目的としている。その際、発達障がいによる二次障害の発症にかかわる問題に配慮し、コミュニケーション・スキルの向上および行動の変化に加え、自己概念の肯定的変化をねらうものとする。その一環として、学生同士の「話し合い」活動を支援するアプリケーション「会話に花を咲かせよう」を作成した。授業で話し合いをするときに学生がスマートフォンで利用できる“おたすけアプリ”である。アプリケーションの作成にあたっては次の点を重視した。①コミュニケーションの楽しさを体験できるようゲーム性をとり入れること、②話し合い後にメンバー相互でポジティブフィードバックを行い自信や自己肯定感を高める効果をねらうこと、③自閉症スペクトラムのコミュニケーションにおける困難さに配慮するため視覚支援(例、メモやフリップ機能)を取り入れるとともに話し合いを構造化すること、④学生の普段の行動と違和感を少なくするためスマートフォンでできること、⑤テーマや時間および人数などを自由に設定でき多様な授業形態で実施しやすいこと、⑥コミュニケーションが専門でない教員でも使用しやすいようにアプリケーションがコミュニケーションのポイントを教示する、などであった。本研究ではアプリケーションの効果として自己概念、コミュニケーション・スキル、自己肯定感の変化の検討を行った。

II 方 法

調査対象者：教育学部に所属する女子大学生 8 名。平均年齢 21 歳。 調査時期：2020 年 11 月。

実施方法：学生 8 名を 4 人ずつの 2 つのグループに分け、15 分間の集団討論を週に 1 回、3 週間実施した。グループの条件は、アプリケーションを使用して集団討論を行うグループ（アプリ使用群）と、アプリケーションを使用せずに集団討論を行うグループ（アプリなし群）であった。1 回目の実施前に質問紙調査を実施した。手続きは、討論のテーマを説明の後、「自己他者評価シート」を配布し、討論時の望ましい行動のポイント 10 項目（例「みんなの気持ちを引き立てるようにふるまう」「みんなの意見をまとめる」「相手の意見を聞いてから発言する」など）を各自で確認してもらった。その後、集団討論を 15 分間行った。アプリなし群においては、集団討論の次に相手の良い点を伝えあう時間(10 分)を設けた。最後に両グループとも「自己他者評価シート」に記入し終了した。3 回目を実施後にも質問紙調査を実施した。話し合いの様子を参加者に許可を得て 360 度カメラで撮影した。話し合いのテーマは、第 1 回「地域と連携した防災の備えについて」、第 2 回「IT 社会におけるコミュニケーションについて」、第 3 回「しつけと虐待について」であった。

質問項目の構成：①自己概念の形容詞 12 項目(榎本(2002)から抜粋)、②自閉症スペクトラム指数(AQ)日本語版 50 項目(若林・東條・Baron-Cohen・Wheelwright, 2004) 4 件法に修正 (1 回目実施前のみ回答)、③コミュニケーション・スキル尺度 ENDCOREs(藤本・大坊, 2007) 6 因子 24 項目、④自己肯定意識尺度(平石, 1990)であった。倫理的配慮として、個人情報保護されること、データは研究のみに使用すること、成績評価に影響しないこと等を伝え、同意した学生が回答した。

III 結果と考察

質問項目については参加者数が少なく統計的検定をすることはできなかったが、グラフを作成した見かけ上の違いではコミュニケーション・スキルにおいてアプリ使用群の方が全体的に実施後に向上していた。特に、自己表現因子と自己主張因子において、グループ間の見かけ上ではあるが違いがみられた。このことは、実施後の自由記述にも反映されており、アプリ使用群では「相手の意見をしっかり聞く」「目を合わせることや相槌をすることは相手も話しやすく、聞く姿勢になれると感じた」「意見が違ったときに一つにまとめることが難しかった」等、具体的なコミュニケーション・スキルにふれる記述がみられた。一方、アプリなし群は「面白かった」「話し合いの進め方を学ぶことができた」など、やや漠然とした記述であった。今後検討する必要があるが、アプリを使用することでコミュニケーション・スキルに対する意識をより高めた可能性が考えられた。

子どものキャラクター志向について

小泉里奈（広島市五日市駅前保育園）

I 研究の目的及び方法

子どもたちが、自分の好きなキャラクターになりきって遊んだり、体操服などを入れる袋やタオルなどがプリキュアやディズニープリンセス、戦隊ヒーローなどが描かれているものを好んで持ってきていることを度々目にした。先行研究によると堀井（2017）は、子どもに愛される条件として次の 2 点挙げた。1 つ目は、記号論的側面から子どもに親しみのあるモチーフをベースとして一貫性のある色をもたせること、2 つ目は、物語論的側面から行動規範・性格・家族構成を描いてキャラクターの考えや行動を予測できるようにし、絵本の内容以上の物語を作り母親（またはほかの読み聞かせる大人）とのコミュニケーションを創出できるようにすることであると述べている。しかし、これらの 2 つの条件が子どもたちのキャラクターを好きになる理由になるかどうかは不明である。また、テレビによく登場するキャラクターを好むことも先行研究で明きからとなった。

そこで、本研究の目的は、子どものキャラクター志向の特徴や理由、そして課題を明らかにすることを目的とする。

本研究方法として、幼児の親へのアンケート調査と保育者へのインタビュー調査を行った。

II 研究結果及び考察

親への子どものキャラクターに関するアンケート調査から、子どもがキャラクターに関心があると感じている親は 94% という結果であった。また、子どもが好きなキャラクターは、自分になりたいと思う気持ちや見た目にあこがれをもって好んでいることが明らかになった。一方、嫌いなキャラクターはディズニーアニメーションで登場する悪役や絵本に出てくる悪者をあげていた。また、男の子と女の子では、好きなキャラクターが異なり、女の子では、女兒用キャラクターを好み、男の子では、男児用キャラクターを好むことが分かった。しかし、子どもがキャラクターの髪形をまねしたり、子どもに求められて衣装を作ったりするが、キャラクターのストーリーの内容を理解しているかは不明だと親は感じていることも明らかとなった。

一方、保育者は、キャラクターを上手く使って保育をしたり、子どもの思いを受け止めたりしながら、キャラクターを活用していくことが大切であると受け止めていることも明らかとなった。

III 引用・参考文献

- ・戸田 有一（2001） 「幼児の動物キャラクターに対するステロタイプの変容について」—幼児のステロタイプへの接近のための予備的研究— 『エデュケア』 pp.31-39.
- ・湯澤 正道（2003） 「子どもがキャラクターを好きなわけ」—幼児のキャラクター受容、理解、養育者の関連性— 『心理学最新研究第 17 回』 pp.114-119.
- ・堀井香奈子（2018）「子どもに愛されるキャラクターの条件」『人間文化創生化学論叢（20）』、pp.233-240.

固定遊具のある遊び環境が子どもの発達に及ぼす影響

村上真央（広島市口田保育園）

I 研究の目的及び方法

固定遊具のある環境について、子どもは遊びを通して発達していくものであり、遊び環境が重要であること、その遊び環境には固定遊具が欠かせないことは多くの論文で明らかになっている。しかし、固定遊具による子どもの身体的・社会的・知的発達についての具体的な発達のプロセスは明らかにされていない。そこで、遊び環境の中に固定遊具があることで、子どもにどのような発達を促しているのか知りたいと思った。固定遊具の特徴や現状について明らかにし、固定遊具のある環境が子どもの発達に及ぼす影響について明らかにすることを本研究の目的とする。

本研究の方法は、文献分析と保育者へのインタビュー調査である。

II 研究結果及び考察

本研究では、まず文献によって固定遊具の歴史や現状について明らかにした。固定遊具は昔から今でも変わりなく子どもの遊び環境に存在していることが分かった。更に、文献に記載されている固定遊具と子どもの発達についての記述内容を分析した。固定遊具には遊戯的なものと課題的なものに分けられ、それぞれ良さがあった。そして運動能力だけでなく、保育者や他児と関わることで社会性を身につけていくことが明らかになった。また、園庭にある固定遊具は子どもたちにとって「いつもの場所」であるという安心感を持つことができるといった効果もあることが分かった。

次に保育者へのインタビュー調査では固定遊具それぞれの特徴を踏まえた子どもの発達について明らかにした。遊びながら運動能力だけでなく、社会性、主体性、挑戦するという子どもの心の成長を促すことが出来ることが推測された。また保育者は固定遊具を通して、子どもと一緒に遊び、共に喜び、時には応援するといった関わりも重要であると考えていた。幼稚園での参観調査では、固定遊具がただ存在するのではなく保育者の働きかけも必要であるということが実証された。このように固定遊具は様々な発達を促すことができるため、子どもの遊びにとって必要不可欠であることが分かった。しかし、そのためには保育者の働きかけも重要であることを明らかとなった。

III 引用・参考文献

- 1) 龍田幸奈 西館有沙（2020）「幼児の固定遊具へのかかわり方とその発達の变化に関する観察研究—園庭の鉄棒と太鼓橋に着目して—」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要教育実践研究 第 14 号』、p. 103-112
- 2) 辻谷真知子（2006）「第 4 節 屋外環境をデザインする—園庭のもつ意味の重要性—」『保育内容』 環境 第 3 版』、p. 73-74
- 3) 原子純（2014）「子どもの遊びの創造・遊びの環境を視点として」『尚美学園大学総合政策論 19 号』、p. 77-89
- 4) 村岡眞澄（1999）「園の固定遊具における遊びのあらわれとその意味」『愛知教育大学実践総合センター紀要 第 2 号』、p. 123-128.

幼児の休日の運動機会に関する調査研究

加登本仁 (安田女子大学)

I 研究の目的及び方法

幼児期における運動の意義について文部科学省 (2012) は、「体力・運動能力の向上」「健康的な体の育成」「健康的な心の育成」「社会適応能力の発達」「認知能力の発達」の 5 つを挙げ、幼児期における運動の重要性を指摘している。また、平成 25 年度の幼児期の運動促進に関する普及啓発事業「実践事例報告集」(文部科学省、2013) では、28 の実践事例が報告され、学校園での取り組みを通じた幼児の運動愛好度や体力・運動能力の高まりや保育者の資質向上といった成果が示されている。しかし、半数以上の報告で「家庭との連携」や「降園後や休日の運動機会の充実」が課題として挙げられている。このことから、幼児期の運動促進に向けては、学校園での取り組みに加え、家庭での運動機会の充実に向けた方策を検討する必要があると考えられる。そこで本研究では、幼児の家庭での運動機会の充実に向けて、休日の運動機会の実態や影響要因について考察することを目的とした。

本研究では、私立 A 幼稚園の保護者 208 名を対象としてアンケート調査を実施した。調査は 2020 年 12 月 7 日から 12 月 12 日にかけて、GoogleForm を用いて実施した。回答数は 142 であり、回答率は 68.3%であった。質問項目は、在園児の「学年」「性別」「きょうだいの有無」「習い事」といった属性を尋ねる内容と、「子供の運動愛好度」「保護者の運動愛好度」「子供の運動量についての満足度」「休日の過ごし方」を尋ねる内容で構成した。分析では、性別、きょうだいの有無、保護者の運動愛好度を視点として群分けを行い、各群の「休日の過ごし方」(近所の公園、大型遊具施設、室内遊戯施設、庭や家の前、テレビ・ゲーム、室内遊具、ボードゲーム・カードゲーム、室内ごっこ遊びの 8 項目について「よくしている、時々している、あまりしていない、まったくしていない」の 4 件法による回答) の平均値の差異を、t 検定を用いて検討した。

II 研究結果及び考察

「性別」では、「近所の公園」(男児 > 女児 : $p < 0.05$) と「室内遊具」(女児 > 男児 : $p < 0.05$) で有意な差がみられた。「きょうだいの有無」では、「近所の公園」(いる > いない : $p < 0.001$) と「大型遊具」(いる > いない : $p < 0.001$)、「テレビ・ゲーム」(いる > いない : $p < 0.01$) と「室内遊具」(いる > いない : $p < 0.01$)、「ごっこ遊び」(いない > いる : $p < 0.05$) で有意な差がみられた。「保護者の運動愛好度」では、「近所の公園」($p < 0.001$)「大型遊具」「屋外遊び」($p < 0.01$)「屋内施設」「ボードゲーム・カードゲーム」($p < 0.05$) の 5 項目で有意な差がみられた。

以上の結果から、休日の運動機会について、男児やきょうだいのいる幼児、そして保護者の運動愛好度の高い家庭は相対的に運動機会が豊富である実態が示唆された。これらのことから、休日の運動機会の充実に向けては、保護者の運動に対する意識を高める取り組みや、性別やきょうだいの有無にかかわらず家庭で実施できる親子体操やリズム体操などが効果的であると考えられた。

III 引用・参考文献

文部科学省 (2012) 幼児期運動指針。

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm (2021 年 5 月 17 日検索)。

文部科学省 (2013) 平成 25 年度幼児期の運動促進に関する普及啓発事業「実践事例報告集」。

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1348600.htm (2021 年 5 月 17 日検索)。

過保護の親に対する保育者の関わり

久保下由唯（三原市立大和認定こども園）

I 研究の目的及び方法

現在、日本では少子化が進み、出生率は 1.43 である。一人っ子の親が過保護になりやすく、過保護になると子どもが自立するのが遅くなる傾向があるのではないかと私は考えていた。しかし、園生活の中できょうだいがいる子どもが自立するのに難しく保育者に頼っている場面や、一人っ子の子どもが自立して自分の力で何でもしようとしている場面を見てイメージが変更された。必ずしも一人っ子の親が過保護とは限らない。では、親のどのような養育傾向が過保護に見えるのか、保育者が過保護傾向のある親にどのような支援や声かけをしているか知りたいと感じた。それが研究動機である。

戸田（2006）によれば、母親の服従的、過保護、甘やかしといった養育態度は、幼児の自己主張や思いやり行動といったポジティブな行動とはマイナスの関係があることと述べている。

よって、幼児行動に影響を与えているのは、母親が子どもに過保護であったり、甘やかす態度であることがわかっている。しかし、実際の保育者はどのように受け止めているのかは不明である。

そこで、本研究の目的は過保護傾向がある親への保育者の具体的な支援の現状や課題を明らかにすることである。

また、研究方法は、保育者へのインタビュー調査を実施した。

II 研究結果及び考察

保育者が保護者に対して過保護だと思ふ場面では生活習慣で子どもの身支度を手伝う、自立するチャンスを逃してしまっている、子どもの意見を尊重しすぎているということが明らかになった。また、保育者の過保護だと思ふ親に対しての保育者支援では親に直接伝えるのではなく、子どもに声掛けをし、子どもの成長を見せることで親の方も安心し、自然に子どもが自立していくようになるということ、自立することで親も過保護な部分が少しずつ和らいでいくことが明らかになった。そして、親と連携をすることで保育者と気持ちを寄り添っていくことが大切だと考えられる。

一方、保育者の課題は、親との連携が難しい、トラブルで解決したことも心配で後日事実とは違うことを言われるということが明らかになった。

III 引用・参考文献

- ・津川佳生（2020）「幼児期の過保護・過干渉が及ぼす子どもへの影響」『安田女子大学児童教育学科 2019 年度卒業論文』 pp. 2-74.
- ・戸田須恵子（2006）「母親の養育態度と幼児の自己制御機能及び社会的行動との関係について」『釧路論集－北海道教育大学釧路校研究紀要－（38）』 pp. 59 - 69.
- ・中台佐喜子・金山元春・前田健一（2004）「母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響－養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討－」『広島大学心理学研究（4）』 pp. 151 - 157.

廿日市市における子育て支援の現状と課題

洞井 優華（廿日市市立宮内保育園）

I 研究の目的及び方法

本研究目的は、廿日市市で子育てをしている保護者が抱える子育てについての悩みの現状、保護者が求めている支援や現在行われている支援について他の市と比較しながら廿日市市における子育て支援の現状と課題を明らかにすることである。

研究方法は、資料収集及び分析により、廿日市市における子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の分析を行った。更に、廿日市市役所子ども課への子ども子育て支援事業計画の達成状況に関する聞き取り調査を行った。また、廿日市市で働く保育士への子育て支援に関するインタビュー調査も実施した。

II 研究結果及び考察

本研究より、廿日市市では、2015 年に「廿日市市子ども・子育て支援事業計画」、2020 年に「第二期廿日市市子ども・子育て支援事業計画」を策定する際に事前に廿日市市で子育てをする家庭へのアンケート調査を行っており、子育て家庭のニーズに合わせて、保育園・幼稚園等の他に子育て支援センターやネウボラ体制、病児・病後児保育の実施、一時預かり、保幼小の連携などの支援をされていることが明らかとなった。市として保育の質の向上に向けて、研修を実施し、保育園の課題を見つけ出してその課題を一つでも解決していけるようにされていることも明らかとなった。

また一方、新型コロナウイルスの影響を受け、子どもの貧困度が増えている子育て家庭の状況が明らかになった。また、保育園の登園自粛による子育ての相談や不適切な養育などが増えていることも明らかとなった。このような現状を受け、廿日市市では経済的な支援に加え、自粛体制での子育て支援としてオンライン子育て広場やオンライン離乳食講座などの取り組みが始まった。廿日市市では社会や状況の変化に合わせた柔軟な対応や子育て支援が行われていると考えられる。しかし、廿日市市が行ったアンケート調査から市の子育て支援サービスの情報を入手しやすいと感じている人は約 15%であることも明らかとなったことから実施している子育て支援サービスの情報を子育て家庭に届けるために工夫が求められていた。

本研究では廿日市市で子育てをしている親や、子育て支援サービスの利用者の子育て支援に対する考えや求める支援とその効果などについては明らかにすることができなかった。今後は廿日市市での子育て支援について実際にサービスを受ける親により注目し、様々な経験年数の保育士からの意見を取り入れながら研究を行っていききたい。

III 引用・参考文献

- ・大豆生田啓友（2017）「新制度以降の自治体発の子育て支援・保育の取り組み」『公益財団法人医療科学研究所医療と社会 27(1)』pp. 89-97.
- ・廿日市市（2015）『廿日市市子ども・子育て支援事業計画』pp. 15-39.
- ・廿日市市（2019）『廿日市市子育てに関するアンケート調査結果報告書』pp. 1, 3-94, 95-145.
- ・廿日市市（2020）『第 2 期廿日市市子ども・子育て支援事業計画』pp. 1-77.

「教育原理」からみた教職専門教育の現状と課題

—大学図書館収集調査の分析に焦点を当てて—

矢野光恵（安田女子短期大学保育科）

I 研究の目的及び方法

研究の目的：「教育原理」¹という科目は、1949 年「教育職員免許法」公布以降、教育免許取得のための教職科目の一つとして設けられている科目である。「教育職員免許法施行規則」では 3 回の改定が行われているが、その変遷を見ても²、教職課程における必修科目であり、教職課程での学修において学生が比較的最初に出会う基幹科目³の一つとも言える。

教育原理の教科書を対象に分析した研究には、牧ら（1992）、小熊（2017）、知念（2018）があり、教科書として扱われている文献やその章構成・章数、出版数などに注目されて行われてきたが、大学図書館における「教育原理」テキストの収集状況に関する研究は管見の限り見合たらない。そこで本研究では、学生の学習権を保障する大学図書館における教育原理テキストの収集状況に関する調査を実施して、現状と課題の把握をめざすことを目的とする。

研究の方法：①「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）」を使用して、1998 年以降に出版されたタイトルに「教育原理」という表記を含む図書から 57 点を抽出した⁴。②調査対象機関：『学校基本調査』で全国 246 の小学校教員養成課程を設置する大学・短期大学を選定した。③調査日時：2021 年 1 月～3 月に調査実施し、2020 年度末のデータとして整理した。④調査方法：CiNii Books 及び調査対象の大学・短期大学図書館の WebOPAC を使用して、図書 57 点所蔵の有無をチェックした。①～④のプロセスを経て得たデータを基に分析を行った。

II 研究結果及び考察

分析の結果、57 点の教育原理テキストの収集率（上位 10 位）は、表 1 のとおりである。57 点の収集率 50%を超えるのは 11 大学で、全体のわずか 4.49%に過ぎなかった。そのうち設置主体を見ると、国立大学は広島大学の 1 校のみで、残りの 10 校は私立大学であった。全体的な傾向として、国立大学平均収集冊数 8.29 冊、公立大学 9 冊、私立大学 11.7 冊と国公立大学の収集率よりも私立大学の収集率の方が高かった。また、0 点の大学は 6.12%であった。

本研究は授業のテキストの有無ではなく、教職専門教育をする大学の図書館メディアの構成として、学生が自ら学びの環境にアクセスできるか否かという点で行った。教育原理のテキストという限られた視点であるが、教職専門教育を担う大学及び学修環境としての大学図書館の課題を概観することができた。

実際の課題としては各大学が教職専門教育の観点からメディアの構成を意図的にしなければ、つまり、学生からのリクエストや司書任せのみでは学習環境が整わないと考える。さらに、57 点中 1 冊も蔵書がないという大学が存在していることも課題と言えよう。何冊あれば十分という議論は難しい問題ではあるが、少なくとも学生が“幅広い選択肢”から“様々な見方や考え方”に触れ、時代の変化に伴った新しいトピックに紙媒体の資料として触れられる機会を保障することが重要だと言える。

III 引用・参考文献

- 木村拓也（2014）「国立大学教育学部における教育学各分野の量的変遷」林泰成他編『教員養成を哲学する：教育哲学に何ができるか』東信堂、pp. 100-123
 小熊伸一（2017）「テキストブック教育原理に関する書誌的研究」『現代教育学部紀要』pp. 35-46
 知念渉（2018）「教育原理では何が教えられてきたのか？—教科書の分析を通じて—」『神田外語大学紀要』第 30 号、pp. 299-318

表 1 大学別にみる教育原理テキストの収集率

順位	大学名	設置主体	合計点数	57 点の収集率
1	東洋大学(東京)	私立	37	64.91
2	日本福祉大学(愛知)	私立	36	63.16
2	関西学院大学(兵庫)	私立	36	63.16
2	安田女子大学(広島)	私立	36	63.16
5	日本女子大学(東京)	私立	35	61.40
6	東北福祉大学(宮城)	私立	34	59.65
6	東京家政大学(東京)	私立	34	59.65
8	国士舘大学(東京)	私立	31	54.39
9	広島大学(広島)	国立	30	52.63
10	淑徳大学(千葉)	私立	29	50.88
10	京都文教大学(京都)	私立	29	50.88

¹ 文部科学省は、他にも「教育原論」「教育基礎論」などの名称をあげているため、養成校によって科目名称は異なるが、本研究では「教育原理」で統一して論じる。また、研究の対象としても「教育原理」の名称に限って展開することにする。

² 歴史的変遷については、木村（2014）、知念（2018）を参考にした。

³ 「教育職員免許法施行規則」で定められた「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」の「教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想」に対応していることから基幹科目と位置づけられる。

⁴ 2020 年 12 月時点の選定である。保育士養成・幼児教育に関わる教科書、問題集、複数の科目がタイトルに列記されている教科書は今回の調査対象から外している。そのリストは発表時に提示する。1998 年以降としたのは、直近の「教育職員免許法施行規則」の改定に合わせたため。

保育の ICT 化に関する研究

白迫優花（広島市船越南部保育園）

I 研究の目的及び方法

近年、ICT 化という言葉を目にする機会が多くなっているように感じる。ICT とは「情報 (Information)」 「通信 (communication)」 「技術 (Technology)」 の総称である。電子機器の進化に伴い、身の回りにはスマートフォンやタブレットを持ち歩く人が増えた。あらゆる世代の人が電子機器を使いこなす、様々なものが便利になっている。しかし実習を通じて保育現場では未だに手書き・手作業のものも多いのではないかと感じた。では、今はまだ広く一般的ではない保育の ICT 化について、人々はどういった意識を持っているのだろうか。私は、保育の ICT 化について、様々な立場から現状や課題を知りたいと思った。本研究は保育の ICT 化の現状と、導入していくにあたっての課題を明らかにしていくことを目的とする。

本研究では文献分析に加え、保育者・行政・企業へのインタビュー調査を実施した。

II 研究結果及び考察

保育者へのインタビュー調査では、以前はホワイトボードに記入する方法で行っていたバスの送迎を、ネット予約システムを用いて行っていることが明らかとなった。ICT 化のメリットとしては手間が省けることや保育料の計算などのミスが少なくなることが期待されていることが分かった。一方デメリットとしては、人と人とのコミュニケーションが少なくなってしまう、保護者と保育者の間で子どもの日々の様子を共有する時間が減ってしまう可能性があるということが分かった。人を育てる、人の心を育てるということは機械ではどうしようもできないことであるが、それを大切にしながら業務の軽減をした方がいいと思うものの ICT 化を進めていくべきであるという考えを持っていることも明らかとなった。

行政へのインタビュー調査では、令和 2 年度から公立園も対象となる ICT 化のための補助金を活用しながら公立園でも ICT の試験的導入を進めることが明らかとなった。保育園の申込者数が増加する中で保育士不足に対応するために効率化できる部分は効率化していきたいという思いが背景にあることも分かった。ICT 化のメリットとしては事務負担の軽減や、健康診断の配信機能など保護者の方に喜ばれる機能があるということが挙げられた。一方デメリットとしては、連絡帳などで手書きのぬくもりが感じられなくなることや、導入費用やランニングコストが高額であるということが挙げられた。

企業へのインタビュー調査では、電子機器が苦手な職員のために操作研修を充実させているという事実や、理解を得ていくために職員同士で操作を教え合い、コンピュータの良さを伝えていくことが有効な手段であることが分かった。また、私立園が約 50% で ICT を導入しているのに対して、公立園では約 10% の園でのみ ICT が導入されていることが明らかとなった。

保育業界では ICT 化のための体制が整えられつつあるということが明らかとなった。しかしそれを使う側としては、機械に頼りすぎるのではなく ICT との付き合い方を慎重に考えていく必要がある。コピー＆ペースト化ではなく、保育者として子どもとしっかりと向き合いながら効率化できる部分は効率化したい。今後は導入を考えていない園の保育士が ICT 化についてどのような考えを持っているのかについても研究を行ってみたい。

スマホ依存による子育ての現状と課題

井上加奈子（東広島市立中黒瀬保育所）

I 研究の目的及び方法

スマートフォンが普及してきた現代では、街中や電車の中で、幼児がスマートフォンでゲームをしたり、動画を見たりしている姿をよく目にするようになった。子どもが登園する際に、母親がスマートフォンを使い通話をしており、登園し、身辺整理をしている子どもを見ていない親の姿を見ることがあった。このような経験から母親がスマートフォンを使うことでの子どもへの影響や子どもがスマートフォンを使う中での影響などが気になっていたことが研究動機である。

橋元ら（2017）は、保護者に子どもがスマートフォンに触れるようになってからの変化を親に質問した結果、情報に触れることで知識が増えたことや、分からないことをすぐネットで調べるようになったという良い変化があがるとの回答する一方で、子どもとのコミュニケーションの低下や視力悪化や運動不足などの悪い変化も挙げられた。しかし、母親がスマートフォンを利用することでの子どもへの影響は述べられていなかった。

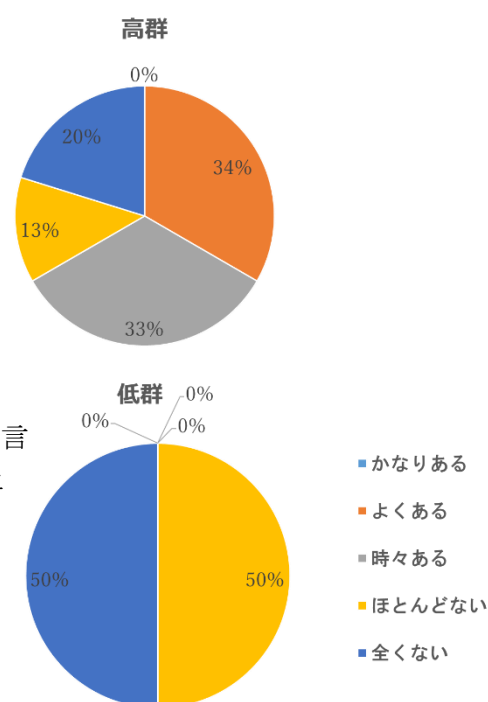
以上のことから、スマートフォン育児の現状を把握するとともに、保護者のスマートフォン利用での子どもへの影響や保育者からの声掛け、スマホ利用についての保育者からの支援方法について明らかにすることが研究目的である。

また研究方法は、アンケート調査及び参観調査を実施した。

II 研究結果及び考察

アンケート調査の結果、子どもと一緒にいる時にスマホを利用する保護者を高群、利用しない保護者を低群とした結果、グラフのように親が子どもと一緒にいる際にスマートフォンを利用していると、子どもは親のスマートフォンを使いたがるということが明らかになった。また、多数の親は、スマートフォンが子どもに悪い影響を与えるということを認識しており、将来の子どもの発達に影響を及ぼすと感じていることも明らかになった。

スマートフォン依存傾向のある親や子どもへの保育者が行う具体的な支援については、直接スマホ利用について言及するのではなく、親に家庭での子どもの遊びの様子を聞いたり、園での子どもの好きな遊びを伝えるなど、なるべく家庭で子どもがスマホを使用して遊ぶことがないように間接的に声掛けできるような配慮がされていた。



III 引用・参考文献

・橋元良明 久保隅綾 大野志郎（2019）「育児と ICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」『東京大学大学院情報学情報学研究. 調査研究編 35 巻』pp. 53-103.

いじめに関する文献分析 ～幼稚園教育要領「領域 人間関係」の役割～

橋本 信子（安田女子短期大学）

Ⅰ 研究の目的及び方法

文部科学省は 2020 年 10 月 22 日、「2019 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を公開した。いじめの認知（発生）件数は前年度より 68,563 件増加して 612,496 件。1985 年度の調査開始以来、過去最多を更新した。小学校が 484,545 件と全体の約 8 割を占め、学年別では「小 2」が最多、「小 3」「小 1」がそれに続き、低学年で多く発生している状況にあることが明らかになった。小学校低学年での「いじめ」の萌芽は、就学前の段階、すなわち幼稚園・保育所・認定こども園の集団保育で発生していると考えられる。そこで、「いじめ」が保育所・幼稚園・認定こども園における集団保育で問題視されているのかどうかを文献によって確認することを本研究の目的とした。文献調査は、国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）を利用し、タイトル中に「いじめ」を含む雑誌記事を検索した。検索条件に雑誌記事を設定した理由は、事件・出来事に即応する特徴を持っており、社会状況を反映する情報媒体であると考えたからである。調査日は 2021 年 5 月。

Ⅱ 研究結果及び考察

「国立国会図書館オンライン」で「いじめ」に関する雑誌記事 2,070 件を検索した。その内、学校段階別の雑誌記事は 478 件で、学校段階別の分析結果は図 1 のとおりである。学校段階別の雑誌記事 478 件の刊行期間は表 1 に示した。幼稚園・保育所・認定こども園における「いじめ」に関する雑誌記事件数は 7 件で、幼児期の「いじめ」に対する関心の低さを示す結果となった。

いじめ防止対策推進法第 2 条において、「この法律において「学校」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚園を除く。）をいう」と規定され、幼稚園等は、いじめの実態調査では対象外となっている。そのため、幼稚園等の集団保育では、“いざこざ” や “けんか” を、「いじめ」の萌芽と捉えることはせず、むしろ社会性発達の機会と好意的に受け止め、子ども同士の共感を手掛かりに相互理解と許し合いに取り組んできた。具体的には、1989 年告示「幼稚園教育要領」の改訂以降、「領域 人間関係」では「自己発揮のぶつかり合いからトラブルや葛藤が生じるのは日常のこと」と受け止めつつ、「友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う」姿、「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」姿、「友達とのかかわりの中で言うてはいけないことやしてはいけないことがあることに気付く」姿を子どもに求め、保育者には「勘や感度」（高杉）、「対人感受性」（森上）を発揮しながら子どもに関わることを推奨してきた。現行の『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、及びその「解説」でも、「いじめ」という用語は使用されておらず、いじめ防止対策推進法第 2 条に則した姿勢を貫いている。

幼児期に「いじめ」の萌芽が発生している可能性を考えれば、小学校低学年の多発する「いじめ」問題に対して、これまでのような看過はもはや許されない。就学以降の「いじめ」問題に幼児期から取り組むために、いじめの萌芽が幼児期に存在することを明らかにすると共に、各種の学校で構築された「いじめ」の予防策や解決事例に学びながら、幼児の特性に応じた対策を領域「人間関係」を基軸に開発することが求められる。

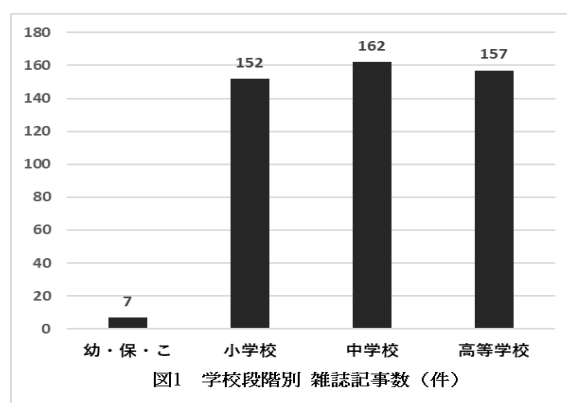


表1 学校段階別 雑誌記事件数の推移				
期間	幼・保・こ	小学校	中学校	高等学校
1980～1984	0	6	6	1
1985～1989	0	9	16	3
1990～1994	0	0	2	0
1995～1999	2	10	21	14
2000～2004	1	14	22	16
2005～2009	2	20	22	28
2010～2014	0	20	37	46
2015～2019	2	58	30	43
2020～2021.5	0	15	6	6
合計	7	152	162	157

学校教師のためのN I E講座～学習単元に結びつく新聞記事の活用～

(Society5.0時代の教育学研究モデル)

中島 正明(安田女子大学名誉教授)

I 研究の目的及び方法

目的: N I Eを指導するには教師の意識変革から

“教師の単元指導に役立つ新聞記事を紹介することで、”日々の学習指導、生徒指導に有効な新聞記事の存在に気づかせ、その活用を推奨すること。

方法:『保育指針』『教育要領』『小中学学習指導要領』の指導項目・学習単元と結びつく新聞記事の紹介

作業:

- ① 新聞記事を切り抜く。
- ② 切り抜き情報をデータベースに登録する。その際、関連する教科項目の登録をわすれないこと。
- ③ 教科単元リストから任意の単元を選択して、記事を検索する。
- ④ 探し出した記事を元にして指導計画をたてる。
- ⑤ その教科・領域の指導に取り組む。
- ⑥ 新聞記事を使用した意義・効果・課題などについてデータベースに簡潔に記録する。

国語	小学校学習指導要領に含まれる語句をプルダウンリストからチェックして一覧表示します。つまり、指導内容や指導事項に関連する記事の有無を確認します。 手順 ① まず教科・領域を選んでください。 ② 次に、各教科・領域に含まれる語句を選んでください。 ③ 語句は、いつでも追加・修正・削除できます。 ④ 語句の一致する記事を表示します。 ⑤ 単元の学習に役立つかどうかは、各自で判断してください。
算数	
社会	
理科	
生活	
音楽	
家庭	
図工	
体育	
外国語	
特別な教科道徳	
特別活動	
総合的な学習	

II 研究結果及び考察 あらゆる分野の学習とつながる新聞記事の活用構想

1□国語

2014/10/30	中国新聞 福山市	古典の人気福山の教室議員元副校長落さん講師過去と今結ぶ解説巧み
2013/11/01	中国新聞 広島県	江戸期広島文芸の隆盛県立文芸館で古典舞踊町人や藩士の句集80点 広島県
2012/08/03	中国新聞 広島市	亀山南小学校古典へ第一歩素読を楽しむ 安佐北区
2011/02/16	中国新聞 広島市	素読で古典楽しむ声に出して読み覚える広島で集い集方つき語彙豊かに
2008/11/25	中国新聞 広島県	劇く言葉の力紙渥北高等学校古典朗読垂切れ長く給養助成中・校私主張弁論大会広島県内の学校
2008/03/10	日本教育 三次市	びんごそが聞きたい環境彫刻家杭谷一東さん古里の自然で感性培う古典準備で一時期国産羅町出身イタリア
1997/09/25	中国新聞 尾道市	尾道…そこは名作の舞台古典から現代まで108点[尾道]市立図書館ゆかりの著作並ぶ
1986/05/13	朝日新聞	横濱わする文庫再び買が問われる復活古典の売り上げ好調
1986/04/05	朝日新聞 近畿地方	<投書>古典や理科でも考え方を鍛える手段に

2□社会

2018/11/28	中国新聞 尾道市	計算力も郷土愛もぐんぐん 尾道の栗原北小学校が「ご当地PPL」作成 東京の教材出版社日本標準と協力
2018/09/25	中国新聞 安芸高田	広島県の神楽 つづる集大成 高宮の郷土史家 堀地さん 県立広島大学での講義 一冊に
2018/08/15	中国新聞 世羅町	町内の古文書 判読し記録 98歳郷土史家 情熱の14冊目 地元の宝知って 世羅の国正さん
2018/07/06	中国新聞 竹原市	竹原の製塩業 証言を文書に 郷土文化研究会の高野さん 図書館に労働者の肉声 塩田先達地
2018/05/30	中国新聞 広島市	広島市佐伯区湯来東小学校児童 田楽で郷土愛 太鼓や踊り 伝統芸能学が 3日 田んぼで初披露
2018/05/26	中国新聞 三次市	江戸期の甲辰学ば 郷土史研究会が報告会

3□算数

2017/01/10	中国新聞 島根県	世界最長の12メートルのそろばん 島根県出雲で「はじき初め」
2016/04/27	中国新聞 広島県	広島商業高等学校キャラクター スタンブに LINE 40種登場 そろばん絵柄も
2015/08/11	中国新聞 広島県	そろばん使節団 広島県内3人訪米へ技術や魅力伝える
2011/01/05	中国新聞 竹原市	脳トレ人気そろばん熱
2007/07/12	中国新聞 島根県	脳トレ・フラッシュ暗算の大先輩そろばん熱い生徒V回復 島根県奥出雲の産地活況
1986/03/30	朝日新聞 近畿地方	<投書>そろばん 小学校では役立つ

4□理科

2017/12/18	中国新聞 庄原市	<投書> かせき8こ見つけた 化石
2017/06/08	中国新聞	30万年前 最古の現生人類 10万年更新 モロッコで化石
2017/06/06	中国新聞 山口県	新種 恐竜卵化石か 福井の博物館発表 1965年 山口県下関の白重前期地層から発見
2017/04/27	中国新聞 島根県	石見 登々浦 集客に力 資料館・案内所1日オープン 島根県浜田市 散在の化石 収集進める
2017/03/15	中国新聞 北陸地方	化石密集 3386点発掘 福井県 白重前期地層
2017/02/26	中国新聞 広島市	西区 鈴華女子短期大学 閉校前にイベント 化石や顕微鏡 科学わくわく

9□特別の教科道徳

2018/04/07	中国新聞	現実には元 生き方問う 表現の限界 挑み続ける 評伝・高橋繁さん 映画「大重なる島」から
2018/03/20	中国新聞 三次市	<投書> 伝記で生き方考える
2017/07/14	中国新聞 広島市	<投書> 孔子から生き方学ぶ 安佐南区 国語 論語 学んで思わなければ、即ち同じ。思えば思わなければ、即ち同じ。
2016/06/13	日本教育 関東地方	埼玉・幸手市教育委員会が読み物資料を作成 郷土への誇り、愛着育む 自然、歴史、先人の生き方に触れる
2014/12/15	日本教育	有村久幸著「新訂版学級教育相談入門」金子書房2700円子の生き方に寄り添う対応
2014/09/15	日本教育	教師のマナー研究会編「毎日の仕事からまわく新報教師のための実践マナーブック」教育開発研究所1944円自身の姿生き方の確立
2014/07/16	中国新聞 広島市	ゲンと生き方に学ぶ安芸区の矢野南小学校校舎で栽培うどん作り 広島

III 引用・参考文献 指定のページ規程を超えるため、表示省略。

ESD に関する文献分析

柿岡玲子（安田女子短期大学）

I 研究の目的及び方法

今日、猛威をふるうコロナウイルス感染症対策が世界中で喫緊の課題である。ところが我々は、もう一つ人類が永遠に存続できるかどうかという地球的規模での危機に直面している。科学の発達は、人間と自然とのバランスを崩壊し、人類が永続的に存続できるかどうかという難題をもたらした。

日本は、2002 年いち早く ESD（Education for Sustainable Development: 「持続可能な開発のための教育」）という考え方を提唱した。最近では、ESD から、「誰も置き去りにしない 17 の目標と 169 のターゲット」としての SDGs に切り替わっている。

そこで、本研究では、教育における Sustainable としての「ESD」について、いつから、誰（どの機関）が、どのような取り組みをしてきたかについて、なんらかの傾向や見通しを文献調査の結果から読み取ることが目的とした。文献調査は、国立国会図書館オンラインを使用し、2019 年 5 月 18 日、タイトル中に「ESD」を含む図書及び記事について検索した。合計 852 件の文献は、マイクロソフト・エクセルで一覧を作成した。（図 1 参照）

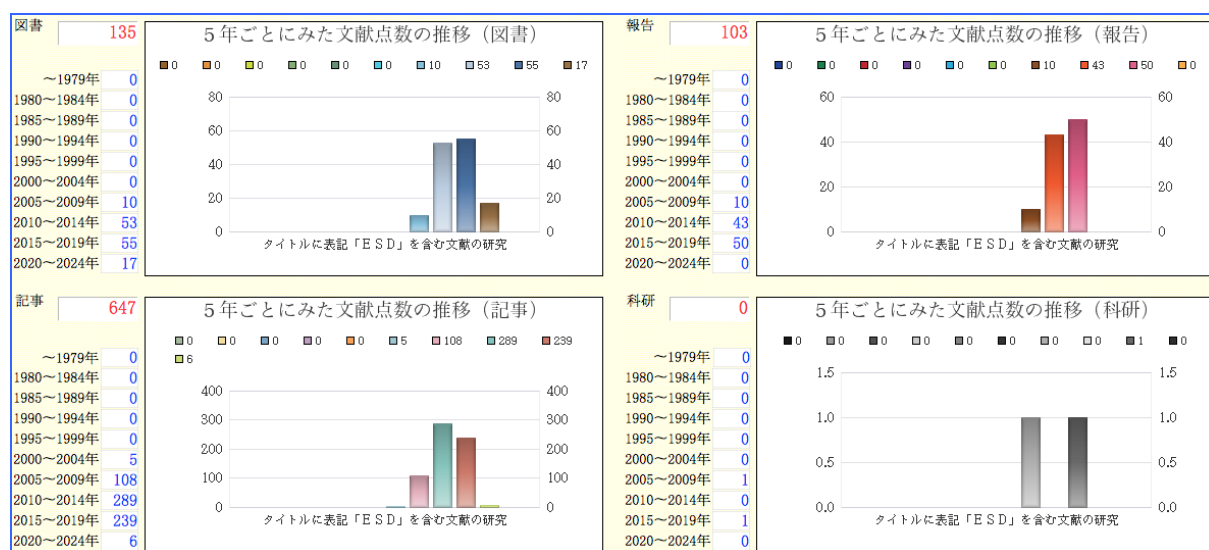
図 1 「ESD」をタイトルに含む図書・記事一覧（最新 10 件のみ表示）

図書	吉田教彦	世界が変わる学び =Learning to Transform the World: ホリスティック／	ミネルヴァ書房		272p	2020.04.
記事	山口 伸	沿岸域廃棄物を対象としたESD(持続可能な開発のための教育)の実施、	マリンエンジニアリング	55(2)	図巻頭	2020.03.
記事	東京都江	わたしの教育実践(329)子どもの学びを深めるESDの学校	教育展望 / 教育調査研	66(2)	60-67	2020.03.
記事	清野 未恵	SDGsを切り口としたサービスマーケティングの可能性: 神戸大学ESDコースの	ふくしと教育 / 日本福祉	(28)	12-15	2020.02.
記事	薄羽 美江	2020年 これまでの日本・これからの日本 令和二年の「将来」を考える: 持	月刊カレント	57(2)	58-61	2020.02.
記事	河本 大地	ESDでみるへき地教育の在り方	日本教育大学協会研究	38	91-103	2020
記事	御手洗 洋	ESDの視点からみた食農教育活動: 神奈川県厚木市「夢未Kidsスクー	環境情報科学	49(1)	120-125	2020
記事		特集 ESDで持続可能な社会の担い手育成: 第34回時事通信社「教育奨	内外教育	(6795)	12-13	2019.12.10
記事		特集ESDで持続可能な社会の担い手育成:第34回時事通信社「教育奨励	内外教育	(6795)	12-13	2019.12.10
図書	田中治彦,	SDGsカリキュラムの創造	学文社		203p	2019.12.

II 研究結果及び考察

21 世紀に開始した ESD 研究につながる流れとして、MDGs (2015), そして SDGs がある。ESD についての研究は報告のみ増加傾向である。

図 2 「ESD」をタイトルに含む図書・記事の経年分析



III 引用・参考文献

図 1 の様式で作成した 852 件。指定のページ規程を超えるため、表示省略。

マイクロプラスチック問題に関する小学校授業プランの開発

ー 6 年理科 食物連鎖の発展学習としてー

土井 徹 (安田女子大学教育学部)

われわれ人間の活動が自然環境に与えている負荷は年々増大している。このままの状況が続けば我々の生きる基盤である生物多様性が失われ、未来の地球で暮らす人間は生きていくことができないとの警告が様々なところから発せられている (例えば生物多様性国家戦略 2012-2020、2012 ; 斎藤、2021)。日本では 2012 年に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」において、生物多様性を脅かすものとして以下の 4 つが指摘されている。すなわち、①開発など人間の活動、②人間の自然に対する働きかけの縮小、③人間により持ち込まれたもの、④地球環境の変化、である。

本小論で取り上げるマイクロプラスチックは③の例である。マイクロプラスチックとは、一般的に 5mm 以下の微細なプラスチックのことであり、劣化して細かく砕けたプラスチックや歯磨きや洗顔料に含まれるスクラブと呼ばれる細かなプラスチックが発生源である。これらはプラスチックの使用が始まってから現在に至るまで河川や海に流出され続けており、近年では水生生物の体内への蓄積や妊娠中の母親の胎盤からの発見が報告されている。世界中の人々が、1 週間にクレジットカード 1 枚分に相当するマイクロプラスチックを摂取している可能性を指摘した報告もある (WWF、2019)。プラスチックには種々の化学物質 (有毒なものを含む) が吸着・含有されることが確認されており、マイクロプラスチックが生物の体内に取り込まれ蓄積された場合の悪影響が懸念されているところである。一方で、プラスチックは、製造・成型が容易でありかつ強靱で極めて安価であることから、現在、台所用品や歯磨き、洗顔料、自動車部品、ペットボトル、梱包材等として広く利用されており、いまや日常生活に不可欠の存在となっている。

したがって、直ちにプラスチックの一切の使用を止めることは現実的ではないが、現状のままプラスチックを使い続ければ、マイクロプラスチックによる影響で何が起こるかわからないというリスクがある。この状況への対処法として考えられる一つの方法は、使わなくても済む場面では使わないことであろう。スーパーマーケットのレジ袋有料化、コーヒーショップでのプラスチックストロー提供廃止などがその例である。ここ数年、このような取り組みや SDGs (Sustainable Development Goals) が人々の目に触れることが多くなってきており、おそらく少なからぬ子どもたちも見聞きしているであろう。このような状況の下、マイクロプラスチックとは何かをまずは適切に理解し、マイクロプラスチックに関する日常の行動について自分なりに考える機会を義務教育段階で設定することは有意義である。しかしながら、マイクロプラスチックに関する小学校の授業実践報告はほとんど見られず、実践の蓄積が待たれるところである。そこで、今回、小学校 6 年理科の学習内容である食物連鎖の発展学習として、授業プランを開発した。開発した授業プランは 45 分間の授業 2 時間分である。これを、日本国内の小学校 2 学級 (60 名) において実践し、授業評価を行った。今回の発表では、主に授業プランの概要と授業評価について報告する。

学習内容及び学習活動の概要を以下に示す。

1 時間目 : 学習内容 : カタクチイワシの採餌方法、カタクチイワシに関する食物連鎖

学習活動 : スライドを用いた双方向を意識した教師の説明、煮干しの解剖

2 時間目 : 学習内容 : マイクロプラスチックとは何か? マイクロプラスチックを加えたカタクチイワシに関する食物連鎖

学習活動 : スライドを用いた双方向を意識した教師の説明、マイクロプラスチックの観察

授業後に、①この授業でわかったこと、②マイクロプラスチックに関して今後自分にできること、の 2 点について自由記述で回答を求め、記述内容が似通ったものをグルーピングすることによって授業評価を行った。回答結果を検討したところ、児童はマイクロプラスチックについては適切に理解したが、必ずしもマイクロプラスチック問題と食物連鎖を関連付けて捉えたとは言えず、今後自分にできることについてはステレオタイプの回答が目立つことが明らかとなった。詳細は当日報告する。

【謝辞】本研究は安田女子大学学術研究助成の補助を受けて実施したものである。また広島大学附属東雲小学校教諭古石卓也氏、富山市立呉羽小学校教諭森本海羽氏に支援いただいた。記して感謝申し上げる